

## エチオピア：ティグライ族とアムハラ族との間に境界線を巡る衝突と民間人（特にアムハラ族の属性を持つ者）の状況に関する情報（2010 年～現在）

エチオピアの「2010 年以降のティグライ族とアムハラ族との間に境界線を巡る衝突と民間人（特にアムハラ族の属性を持つ者）の状況」に関する調査依頼に対し、難民研究フォーラムが規定の時間的制約の中で調査したところ、関連しうる情報として、既に調査済みとして指定された国際ナショナル・クライシス・グループの 2020 年 6 月 12 日付け報告のほか、以下の情報が見つかりました。

1. ティグライ族とアムハラ族との間の州境を巡る争い ..... 1
2. 2020 年 11 月以降の民間人虐殺 ..... 5
- 参照： ..... 6

### 1. ティグライ族とアムハラ族との間の州境を巡る争い

ア オーストラリア外務・貿易省 (DFAT) [「出身国情報報告 エチオピア」](#) (2020 年 8 月 12 日)

#### 治安状況

2.50 2018 年以降、国内の一部で治安状況が悪化している。特にオロミア州のウエスト・ゲジ [West Guji] 県 [Zone]、オロミア州とソマリ州の州境地帯、オロミア州とベニシャングル・グムズ州の州境地帯、アムハラ州とティグライ州の州境地帯で、民族間の衝突が、ほとんど例外なく土地やその他の資源をめぐる、著しく増加している。民族間の衝突は、死者や財産の破壊、大規模な国内避難を引き起こしており、エチオピアは 2018 年に世界で最も多くの紛争関連での国内避難民数を記録した（「国内避難民」を参照）。エチオピアの各州では民族武装勢力が急増しており、武器も簡単に入手できている。アディスアベバは今日まで、このような不安定さとはほとんど無縁の状態にある。

#### アムハラ人

3.10 ...アムハラ族は、アムハラ族がマジョリティではない各州、特にベニシャングル・グムズ州において、民族にもとづく攻撃の対象となってきた。...

#### ティグライ人

...

3.14 ティグライ州政府は、主にアムハラ州政府との間で、数多くの国境紛争を抱えている。ティグライ民族とアムハラ民族がウェルカイト [Welkait] 郡 [woreda]

トラヤ [Raya] 郡で衝突しており、双方が相手方の不法行為を訴えている。農村部では紛争が続いており、アムハラ州東部ではティグライ人も暴力の対象となっている（2007 年の国勢調査時点では、アムハラ州に約 3 万 7 千人のティグライ人が住んでいた）。

#### 2014 年～2018 年の抗議運動と非常事態宣言

3.42 ...隣接するアムハラ州（エチオピアで 2 番目に人口の多い州）では、2016 年 7 月、並行して抗議運動が発生した。この抗議運動は、アムハラ州とティグライ州の境界線が画定されたことによりアムハラ州の伝統的な土地が失われたことに対するアムハラ州の歴史的な不満がきっかけとなっている。オロミア州と同様に、アムハラ州での抗議運動は、より幅広い改革を求める声へと変化した。オロミア州とアムハラ州での抗議運動では、政府軍と抗議者らの間で、実弾の使用を含む暴力的な対立があった。

#### 国内避難民

3.81 州境をめぐる紛争や民族間の衝突により、国内の多くの地域で大規模な国内避難民が発生している。2018 年以降で、約 350 万人のエチオピア人が国内避難民となっている。それらのうち、少なくとも 300 万人は紛争を原因とするものである。対照的に、2017 年 9 月の時点では、紛争による国内避難民はわずか 20 万人であった。紛争を原因とする避難は、土地やその他の資源へのアクセスを巡ってのものが多く、アムハラ州、ベニシヤングル・グムズ州、ハラリ州、オロミア州、ソマリ州、SNNP 州など、全国で発生している。...

#### 軍隊

...

5.6 米国を含む国際パートナーは、平和維持活動、専門的な軍事教育、軍事訓練管理、対テロ作戦など、エチオピア国軍のさまざまな訓練プログラムに資金を提供している。エチオピア国軍は、2014 年から 18 年にかけてのオロミア州とアムハラ州での抗議活動や、ソマリア州での ONLF に対する対反乱勢力作戦において、過剰な武力行使や超法規的措置による殺害などの過去に人権侵害行為について非難されている。

...

#### 警察

...

5.10 オロミア州やアムハラ州での 2014 年から 2018 年の抗議運動や、ソマリ州での ONLF に対する対反乱勢力作戦などにおいて、殴打や恣意的な逮捕・こ留から、レイプ、拷問、超法規的殺人に至るまで、連邦および州の警察部隊による

人権侵害が行われたという信頼できる報告がある。...

イ DFAT「[出身国情報報告 エチオピア \(法務省仮訳\)](#)」入管庁ウェブ (2019 年 9 月 28 日)

抗議活動と 2016 年の非常事態宣言

...

3.36 全体計画に対する抗議は 2015 年暮れに再度オロミアで発生し 2016 年まで続いた。2016 年 1 月、政府はもはや全体計画の実行は不可能と発表した。しかし、抗議活動は広くオロミア州やアディスアベバで続き、2017 年 7 月からは、アムハラ州でもデモがあった。アムハラの抗議は、表向きはティグレ州政府のアムハラの土地の統治につながったアムハラとティグレ州のこれまでの境界設定に対する非難の表れだった。アムハラとオロミアでの抗議は原因こそ違うが、のちに政治的、経済的な改革を求める声へと拡大していった。

ウ 米国連邦上院調査部門「[エチオピアにおける拡大する紛争](#)」米国司法省ウェブ (2020 年 12 月)

エチオピアの政治移行

...

アビーの選出は、オロミア州で始まり、国家による暴力と抑圧によって激化していった 2 年以上に及ぶ抗議運動を経ての、政府への圧力の増大を受けてのものであった [...]。オロモ族住民が感じているティグライ族やアムハラ族の政治エリートからの周縁化には、歴史的な根があり、TPLF 支配下において緊張が高まっていた [...]。オロモ族民衆が刺激を受けた抗議運動の中には、1990 年代に EPRDF がエチオピアを民族州に分割した際に発生したティグライ族との領土問題を抱えているアムハラ族 (エチオピア第 2 の民族) も含まれていた [脚注 8]。

人権団体らは、2015 年から 2017 年にかけての抗議運動において治安部隊が 1,000 人以上のエチオピア人を殺害したと推定しており、政府はこの弾圧で反政府リーダーらを含む 2 万 9,000 人以上を拘束したことを認めている [...]。抗議運動と社会不安の中、散発的なヘイトクライムやティグライ人のエリートが経営する企業への攻撃は、民族的に標的にされる暴力が激化するのではないかという懸念に拍車をかけた。2018 年初め、当時のハイレマリアム・デサレゲン首相は辞任し、「持続可能な平和と民主主義につながる」と彼が断言する改革を促進するために、新たなリーダーシップへの道を開いた [...]

脚注 8 アムハラ人は、TPLF がデルグ退陣運動中に彼らの土地の一部を奪い、政権を取ったときにティグライに併合し、彼らの農民を殺害、立ち退かせたと主張している。紛争の詳細については、[インターナショナル・クライシス・グループ](#)

(ICG) 「Bridging the Divide in Ethiopia's North」 (2020 年 6 月 12 日) を参照。

エ オーストリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター (ACCORD)  
[「エチオピア : COI 編纂」](#) ecoin (2019 年 11 月)

7.3.2 ラヤ＝ウォルカイト争い

現在ティグライ州の一部であり、アムハラと国境を接している「ウォルカイトとラヤの領土」は、ティグライとアムハラの間で争われている (ICG、2019 年 7 月 19 日)。2016 年 7 月、アムハラ州のゴンダール [Gondar] で、「ティグライ州によるウォルカイト地域の併合疑惑をめぐって」集会が開催された。それ以来、騒動は続いている (EIP、2019 年 7 月、22 頁)。イゼガ [Ezega] の 2018 年 12 月の記事は次の通り書いている。

「北部では、ウォルカイトとラヤの飛び地が、現在はティグライ州に含まれているが、アムハラ州の一部の活動家らによって争われており、おそらくはアムハラ州政府が裏で支援していると考えられる。数年前にウォルカイト地区で武力衝突があり、アムハラ州の一部、特にゴンダールではこの問題に関連して衝突があった。今年の 10 月下旬にはティグライ州のラヤ地区で抗議運動があり、3 人が殺害された。」 (2018 年 12 月 20 日付けイゼガ)

エチオピア・インサイト [Ethiopia Insight] の記事によると、「ラヤとウォルカイトの紛争は、国民投票のような憲法上の手段では容易に解決できないため、問題があるようだ」という。ティグリニヤ語を話す人々がこれらの地域でマジョリティを占めることには議論の余地がない。しかし、活動家らは、1980 年代以降にティグライ人がこの地域に入植していると主張している (エチオピア・インサイト、2018 年 12 月 16 日)。

2019 年 1 月のエチオピア・インサイトの記事はまた、ウォルカイトとラヤの領有権の主張に触れ、ティグライ州における TPLF 支配について以下のように報告している。

「TPLF にとって、ウォルカイト [Wolqait] = ツェゲデ [Tsegede] とラヤの問題は悪夢である。まるでそれでは足りないかのように、党幹部らによる犯罪が党を悩ませている。さらに、不安定な指導部は政治的な動きについていくのに苦労しています。TPLF のエリートらのほとんどは、過去 20 年間で繁栄してきたが、国の状況が制御できなくなれば、多くのものを失うことになる。TPLF は、政治的・地理的中心から離れたティグライ州に位置し、ADP や ODP と比べて TPLF の選挙区の規模がはるかに小さいため、不利な立場に置かれている。連邦政府での権力を失った TPLF は、もはや自分の体重以上の力を発揮することはできない。しかし、過去 27 年間に蓄積された資金、情報、軍事的資源を考慮すると、TPLF が戦わずして倒れることはないであろう。」 (エチオピア・インサイト、2019 年 1 月 9 日)

...

## 2. 2020 年 11 月以降の民間人虐殺

### ア 米国連邦上院調査部門「[エチオピアにおける拡大する紛争](#)」米国司法省ウェブ (2020 年 12 月)

#### 拡大するティグライ州の紛争

...

この紛争では、エチオピアの治安部隊の構成員が互いに対立しており、軍部は民族に沿って分断されていると報告されている。TPLF は、ティグライ州治安部隊や民兵の支援を受け、戦闘開始時に北部司令本部から重火器を奪取した [...]。国軍は、隣接するアムハラ州の民兵の支援を受け、ティグライ州で地上作戦や空爆を実行しているが、民間人への攻撃は否定している。...TPLF は、ティグライ州での軍事行動を支援するために使用されているとするアムハラ州内の 2 つの空港に対してもロケット弾攻撃を行っている。

#### 人道的な犠牲者と大規模な紛争残虐行為の危険...

国連の専門家らは、エチオピアにおいて、ジェノサイド、戦争犯罪、民族浄化、人道に対する罪が発生する危険性が高いと警告している [...]。11 月 9 日に起きたティグライ州西部の町マイカドラ [Mai Kadra] での大量殺戮は、これまでのうち最悪の事件として知られており、一部の目撃者はティグライ人青年民兵らと現地の治安部隊が数百人のアムハラ人の民間人を殺害したと非難している [脚注 43]。連邦政府は、この事件を TPLF に対する自らの作戦を正当化する根拠の一つとして使っている。しかしながら、マイカドラ出身のティグライ人避難民の中には、連邦政府軍が TPLF から町を奪取した後、アムハラ族の民兵らがティグライ人を標的にし、ティグライ人の若者らが自衛のために行動したと指摘し、親連邦政府軍による暴力への関与を述べている [脚注 44]。マイカドラは、アムハラ族が自分たちの伝統的な土地だと主張するティグライ州の一部に位置しており、この地域をめぐる長年の領土問題は、民族間の緊張を高めている。

マイカドラの殺戮に加えて、ティグライ州出身の避難民らは、州の別の地域でも治安部隊やアムハラ人民兵によるティグライ人に対する民族的に標的にした攻撃を報告している [脚注 45]。

国連職員らは、国中でのティグライ人に対する恣意的な逮捕、殺害、差別、汚名などの報告に言及している。南スーダンに派遣されている平和維持軍やソマリアに派遣されている部隊を含め、ティグライ人の公務員や治安部隊の一部が拘束されたと報告されている [脚注 46]。エチオピア国家人権委員会は、「特定の容疑者を逮捕するための治安措置が、その適用範囲を超えて、より広範囲のコミュニティに影響を与えている」と重大な懸念を表明している [脚注 47]。人権問題の専門家らは、報復的な民族暴力の危険が増大していること、および、日和見主義や不平不満の高まりから、国内の他の地域でも暴力が増大する可能性があることについて

警告している〔脚注 48〕。

脚注 43 アムネスティ・インターナショナル「エチオピア：ティグライ州の大虐殺で多数の民間人が殺害された証拠が調査で明らかになる」（2020 年 11 月 12 日）；エチオピア人権委員会「エチオピア人権委員会、マイカドラでの重大な人権侵害に関する迅速調査の予備的調査結果」（2020 年 11 月 24 日）。

脚注 44 Robbie Corey-Boulet「エチオピアの大虐殺の遺体に残された疑問」AFP（2020 年 11 月 25 日）；Noé Hochet Bodin & Elliott Brachet「エチオピアでマイカドラ村の謎が民族間の対立の根深さを物語る」Le Monde（2020 年 11 月 30 日）。

脚注 45 例えば、Will Brown「爆撃の後に彼らはナイフで攻撃してきた ノーベル平和賞受賞者の戦争から逃れてきたエチオピア人が述べる」Daily Telegraph（2020 年 11 月 24 日）；Mohammed Amin「ティグライ人難民らがエチオピアの新たな紛争の恐怖を物語る」The New Humanitarian（2020 年 11 月 19 日）を参照。

脚注 46 Colum Lynch & Robbie Gramer「エチオピアによるティグライ民族将校の平和維持部隊からの粛清を国連が恐れる」Foreign Policy（2020 年 11 月 23 日）。

脚注 47 エチオピア人権委員会声明、2020 年 11 月 30 日。

脚注 48 Philip Kleinfeld「エチオピアのその他の紛争」The New Humanitarian（2020 年 11 月 23 日）。

2020 年 11 月以降の民間人虐殺の更なる状況については、引用元の各文書をご参照ください。

以上

#### 参照：

（報告等）

エチオピア人権委員会「Ethiopian Human Rights Commission, Rapid Investigation into Grave Human Rights Violation in Maikadra Preliminary Findings〔エチオピア人権委員会、マイカドラでの重大な人権侵害に関する迅速調査の予備的調査結果〕（2020 年 11 月 24 日）、オンライン：<https://docplayer.net/198410838-Ethiopian-human-rights-commission-rapid-investigation-into-grave-human-rights-violation-in-maikadra-preliminary-findings.html>

\_\_\_\_\_．「Tigray Region: Human rights should guide post-conflict reconstruction〔ティグライ州：人権が紛争後の復興を導く〕」Facebook（2020 年 11 月 30 日）、オンライン：<https://www.facebook.com/202584253551816/posts/tigray-region-human-rights-should-guide-post-conflict-reconstruction-the-ethiopi/1017877458689154/>

オーストラリア外務・貿易省（DFAT）「DFAT Country Information Report Ethiopia」〔出

身国情報 エチオピア)」(2020 年 8 月 12 日)、オンライン :

<https://www.dfat.gov.au/sites/default/files/country-information-report-ethiopia.pdf>

\_\_\_\_\_ . 「出身国情報 エチオピア (出入国在留管理庁仮訳)」(2019 年 9 月 28 日)、  
出入国在留管理庁ウェブ、オンライン :

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930004210.pdf>

オーストラリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター (ACCORD) 「Ethiopia:  
COI Compilation [エチオピア : COI 編纂]」ecoi (2019 年 11 月)、オンライン :

[https://www.ecoi.net/en/file/local/2021013/ACCORD\\_Ethiopia\\_COI\\_Compilation\\_November\\_2019.pdf](https://www.ecoi.net/en/file/local/2021013/ACCORD_Ethiopia_COI_Compilation_November_2019.pdf)

米国連邦上院調査部門 「The Unfolding Conflict in Ethiopia [エチオピアにおける拡大する紛争]」(2020 年 12 月)、米国司法省ウェブ、オンライン :

<https://www.justice.gov/eoir/page/file/1342601/download>

(記事等)

アムネスティ・インターナショナル 「Ethiopia: Investigation reveals evidence that scores of

civilians were killed in massacre in Tigray state [エチオピア : ティグライ州の大虐殺  
で多数の民間人が殺害された証拠が調査で明らかになる]」(2020 年 11 月 12 日)、

オンライン : <https://www.amnesty.org/en/latest/news/2020/11/ethiopia-investigation-reveals-evidence-that-scores-of-civilians-were-killed-in-massacre-in-tigray-state/>

AFP 「Questions linger among the corpses of an Ethiopian massacre [エチオピアの大虐殺の  
遺体に残された疑問] France 24 (2020 年 11 月 25 日)、オンライン :

<https://www.france24.com/en/live-news/20201125-questions-linger-among-the-corpses-of-an-ethiopian-massacre>

Daily Telegraph 「After the bombs they attacked with knives, claim Ethiopians fleeing peace prize

winner's war [爆撃の後に彼らはナイフで攻撃してきた ノーベル平和賞受賞者  
の戦争から逃れてきたエチオピア人が述べる]」(2020 年 11 月 23 日)、オンライ

ン : <https://www.telegraph.co.uk/news/2020/11/23/ethiopia-unleashes-bombing-knife-wielding-militias-civilians/>

Foreign Policy 「U.N. fears Ethiopia purging ethnic Tigrayan officers from its peacekeeping

missions [エチオピアによるティグライ民族将校の平和維持部隊からの粛清を国  
連が恐れる]」(2020 年 11 月 23 日)、オンライン :

<https://foreignpolicy.com/2020/11/23/un-ethiopia-purging-tigrayan-officers-peacekeeping-missions/>

Le Monde 「En Ethiopie, le mystère du village de Maïkadra révèle la profondeur des conflits  
ethnique [エチオピアでマイカドラ村の謎が民族間の対立の根深さを物語る]」

(2020 年 11 月 30 日)、オンライン :

[https://www.lemonde.fr/afrique/article/2020/11/30/en-ethiopie-le-mystere-du-village-de-maikadra-revele-la-profondeur-des-conflits-ethniques\\_6061595\\_3212.html](https://www.lemonde.fr/afrique/article/2020/11/30/en-ethiopie-le-mystere-du-village-de-maikadra-revele-la-profondeur-des-conflits-ethniques_6061595_3212.html)

The New Humanitarian 「Tigray refugees recount the horrors of Ethiopia's new conflict [ティ

グライ人難民らがエチオピアの新たな紛争の恐怖を物語る]」 The New Humanitarian (2020 年 11 月 19 日)、オンライン :

<https://www.thenewhumanitarian.org/news-feature/2020/11/19/ethiopia-tigray-conflict-sudan-refugees>

\_\_\_\_\_. 「Ethiopia's other conflicts [エチオピアのその他の紛争]」 The New Humanitarian (2020 年 11 月 23 日)、オンライン :

<https://www.thenewhumanitarian.org/news-feature/2020/11/23/ethiopia-tigray-fuel-conflict-hotspots-ethnic-politics>